

地理歴史

世界史A, 世界史B

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

世界史A

1 前 文

本年度の「世界史A」の受験者数は1,214名と、昨年度の1,271名から57名減少したが、科目選択率は昨年度と大差なく0.3%となっている。本試験の平均点は42.16点で、「世界史B」の平均点60.28点とは18.12点の差があり、センター試験時と変わらず、両者の平均点には開きがある。

なお、評価に当たっては、14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内容・範囲

(1) 評価の観点

年度・出題数 設問形式	令和6年度	
	出題数	(出題率)
主に知識・技能を評価するもの	26	(86.7 %)
主に思考・判断を評価するもの	4	(13.3 %)
合 計	30	(100.0 %)

(2) 分野別の出題数・出題率

年度・出題数 分野	令和6年度	
	出題数	(出題率)
政治史	26	(86.7 %)
社会経済史	2	(6.7 %)
文化史	1	(3.3 %)
複数分野に関わる	1	(3.3 %)
合 計	30	(100.0 %)

* 知識・技能を評価する問題と思考・判断を評価する問題の分類は、評価・分析委員会の判断による

(3) 時代別の出題数・出題率

年度・出題数 時代	令和6年度	
	出題数	(出題率)
古代史	1	(3.3 %)
中世史	2	(6.7 %)
近世史	4	(13.3 %)
近代史	12	(40.0 %)
現代史	8	(26.7 %)
[うち戦後史]	6	(20.0 %)
複数時代混合	3	(10.0 %)
合 計	30	(100.0 %)

(4) 地域別の出題数・出題率

年度・出題数 地域	令和6年度	
	出題数	(出題率)
西欧・北米	13	(43.3 %)
東欧・ロシア	3	(10.0 %)
東・内陸アジア	6	(20.0 %)
南・東南アジア	0	(0.0 %)
西アジア・アフリカ	6	(20.0 %)
中南米・オセアニア	0	(0.0 %)
複数地域に関わる	2	(6.7 %)
合 計	30	(100.0 %)

中世(5c~14c)・近世(15c~17c)・近代(18c~19c)・現代(20c~)を判断の目安とする。

第1問 帰国後に社会の変革を志した人物について

問1 文章中の空欄に入れる二つの語句と、資料で扱われている出来事やその影響について述べた文について、正しい組合せを選択する問題。資料から読み取る技能と、フランス七月革命についての既習の知識を問う問題。「君主」の位置づけに二通りの定義があることを読み取った上で、ルイ＝フィリップの位置づけを正しく理解しているかを問う、概念的理解を問う良問。正答率が20%に届かなかったのは、七月革命に関する知識につなげることができたかどうかで差がついたと思われる。

問2 エジプトの自立と近代化について、年代順に正しく配列されているものを選択する問題。単なる年号の暗記ではなく、エジプトの近代化の展開について、論理整合性にに基づい

た思考力・判断力・表現力等を問う問題。

問3 イスラーム世界の近代化に関する様々な思想、運動などについて、適当な文を選択する問題。事実に知識を問う問題。誤選択肢がすべて事実に知識に関する誤命題であった。下線部の「近代化に関わる問題」を活かした選択肢などへの工夫が見られると、より「近代化」の概念的な理解について問う問題になった可能性がある。

問4 文章中の空欄に入れる戦争について、適当な文を選択する問題。日清戦争について、知識・技能を問う問題。

問5 日本と中国のな係に関する出来事について、年代順に正しく配列されているものを選択する問題。「義和団戦争」「満州事変」などの用語ではなく「扶清滅洋」や「満州国執政」などをキーワードとした文章と、下線部の「中国の対日感情が複雑そうな時期」を基に、日本と中国とのな係について、論理整合性に基づいた思考力・判断力・表現力等を問う問題。

問6 文章中の空欄に入れる南京について述べた二つの文の正誤について、正しい組合せを選択する問題。南京についての知識・技能を問う問題。明と太平天国という複数時代を混合した点に工夫が見られる。

第2問 世界史上の風刺画や教科書をとおして見る時代背景や社会状況について

問1 文章中の空欄に入れる国の歴史について、適当な文を選択する問題。オスマン帝国についての知識・技能を問う問題。

問2 図1・2で描かれている事柄として、適当な文を選択する問題。2枚の風刺画を比較することで読み取れる情報を基に、第1次、第2次バルカン戦争についての既習知識を組み合わせる知識・技能を問う良問。

問3 生徒が書いたメモの正誤について、適当な文を選択する問題。問2で読み取った風刺画の情報を基に、第一次世界大戦開戦時の国際情勢についての包括的理解を問う問題。問2との小問同士の連関性を高めた問題として工夫が見られる。

問4 文章中の空欄に入れる第三共和政の時代に起こった出来事について、適当な文を選択する問題。第三共和政についての知識・技能を問う問題。

問5 ドイツ皇帝即位式が行われた宮殿名と、フランスがドイツに割譲した地域の地図上の位置について、正しい組合せを選択する問題。プロイセン・フランス（普仏）戦争についての事実に知識だけでなく、アルザス・ロレーヌ地方の地理的理解も含めた、包括的理解を問う知識・技能の問題。

問6 生徒が書いたメモの正誤について、適当な文を選択する問題。資料の読み取りをもとに、国民統合と学校教育にな係についての概念的な理解を求める良問。

第3問 人やモノの移動と産業の発展が現代社会に与えた影響について

問1 文章中の空欄に入れる二つの文と語句について、正しい組合せを選択する問題。イタリア諸都市と地動説についての知識・技能を問う問題。

問2 下線部について、適当な文を選択する問題。フェニキアに関する事実に知識を問う問題。

問3 ガラスの歴史について、適当な文を選択する問題。既習の知識を基に、会話文から読み取った情報を組み合わせる知識・技能を問う問題。近代建築におけるガラスの位置づけなどの知識と組み合わせると出題すれば、思考力・判断力・表現力等を問う問題になったのではない。

問4 アメリカ合衆国の奴隷制について述べた二つの文の正誤について、正しい組合せを選択する問題。事実に知識を問う問題。

問5 文章中の空欄に入れる語と文について、正しい組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。空欄「ウ」に入れる語の選択が平易で、事実上の二択になっている点が惜しまれる。空欄「ウ」を会話文全体の文脈から問うなど、発問に工夫がほしかった。

問6 1940年頃から1960年代末までのアメリカ合衆国の政治・経済の動きについて、適当な文を選択する問題。事実に知識を問う問題。選択肢の文章を工夫したり、アメリカ合衆国の社会問題に関する資料などを新たに提示したりすることによって、公民権運動についての概念的な理解を問う問題になった可能性があったのではないかと。

第4問 芸術や宗教、文字といった文化が政治に与える影響とその関係について

問1 プロテスタントに関連して、16世紀のヨーロッパの宗教に関する事柄について、適当な文を選択する問題。宗教改革についての事実に知識を問う問題。

問2 文章中の空欄に入れる戦いに敗れた国の歴史について、適当な文を選択する問題。知識・技能を問う問題。会話文を丁寧に読み込むことで、空欄がオスマン帝国であることに気付く技能が求められる。

問3 文章中の空欄に入れる二つの語句について、正しい組合せを選択する問題。2枚の絵画を読み取り、事象同士の関連性を考察した上で、フェリペ2世の意図についての概念的な理解と、思考力・判断力・表現力等を問う良問。

問4 西夏文字の特徴と、その成立背景として考えられることについて、正しい組合せを選択する問題。会話文の読み取りから、文字の持つ象徴性についての概念的な理解を問う良問。

問5 下線部について、誤っている文を選択する問題。モンゴル帝国についての事実に知識を問う問題。

問6 文章中の空欄に入れる二つの語句について、正しい組合せを選択する問題。アイグン条約についての地理的理解とともに、琉球国王の印に満州文字が刻まれた背景となる、東アジアの国際関係についての包括的な理解も求められている良問。

第5問 諸国家の思惑と国際秩序の維持について

問1 文章中の空欄に入れる人物名とその人物について述べた文について、正しい組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。

問2 下線部の時期に起こった出来事について、適当な文を選択する問題。事実に知識を問う問題。

問3 歴史上の民族自決について述べた二つの文の正誤について、正しい組合せを選択する問題。民族自決や、「アフリカの年」についての事実に知識を問う問題。選択肢の文章を工夫したり、アフリカの植民地に関する資料などを新たに提示したりすることによって、民族自決についての概念的な理解を問う問題になった可能性があったのではないかと。

問4 1950年代から1960年代にかけてのアメリカ合衆国またはソ連について、適当な文を選択する問題。両国の核開発などについての知識・技能を問う問題。

問5 文章中の空欄に入れる文について、適当なものを選択する問題。知識・技能を問う問題。緊張緩和から新冷戦に向かう当時の国際関係に関する包括的な理解を問う問題。

問6 グラフの推移について述べた二つの文の正誤について、正しい組合せを選択する問題。グラフから読みとった情報を基に、核軍縮についての事実に知識を踏まえて関連性を考察する、思考力・判断力・表現力等を問う良問。

3 分量・程度

分量は60分の試験時間に見合った適切なものである。大学入学希望者の学力を測定するものと

しては、適切な難易度であった。歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察し、概念的に理解しているかを問う、「知識の理解の質」を問う問題が様々に工夫された上で出題されていた。

分量としては知識・技能の問題が多かったが、事実に知識のみを求めるのではなく、概念的な理解を問う知識・技能の問題に昇華している問題が目立った。4・7・26・29などは、資料や会話文などのテキストから空欄にあてはまる歴史的事象を読み取った上で、その事象に関する知識を確認するような、知識と技能を関連させた問題になっていた。11のように、地図問題と組み合わせるなど、工夫された問題もあった。また、2・5のような年代序列問題も、歴史的事象相互の因果関係についての思考・判断を促す問いとなっており、単純な年号の暗記的知識を求める問題作成からの脱却が図られていた。8は、第1次と第2次のバルカン戦争に関する2枚の風刺画を比較して読み解く、資料読み取りの技能を問う良問であった。

知識・技能をとおして概念的な理解を問う良問として、1・12・21・22を挙げたい。いずれも、単純な概念用語の確認ではなく、それぞれ資料などと組み合わせて出題されていた。特に1は君主の定義という概念と国民国家との関係性について、平易な表現の選択肢で問う、非常に工夫された問題であった。21は2枚の絵画の読み解きをもとに、フェリペ2世が異端者や異教徒に対してどのように臨んだかという、近世の宗教的意識についての概念的な理解にまで昇華させた問題であった。一方で、27は民族自決のキーワードが問題文中にあるが、事実に知識を問う問題にとどまり、概念的な理解を問う問題に展開しきれなかったと思われる。

思考力・判断力・表現力等の問題として、良問と思われるものとして、前述の21を挙げる。21は知識・技能をとおして概念的な理解を問う良問であるだけでなく、2枚の絵画に共通する為政者の意図について思考する力を問う問題にも発展していた。また、30はグラフを読み取り、その情報と事実に知識を関連づけて考察する力を問うていた。

4 表現・形式

すべての大問で風刺画、絵画、グラフなど、豊富な資料が用いられていた。受験者にとっては初見と思われる資料も積極的に活用されていた。問題の場面設定としては、すべての大問で会話文が用いられており、特に、第1問中間Bは、世界史の授業での発表準備中の会話という設定で、より良い発表にするための工夫を相談しているという場面であった。望ましい世界史学習の再現という点でよく考えられている。

中間全体の構成がよく練られていたものとして、第2問中間Aと第4問中間Aを挙げる。第2問中間Aは第1次と第2次のバルカン戦争に関する2枚の風刺画を読み解く技能をもとに、第1次世界大戦直前の国際情勢について正しく理解しているかを包括的に問う、工夫された3問から構成されていた。第4問中間Aは、美術館で絵画を鑑賞している先生と生徒という場面設定で、近世の絵画資料の読み取りの手法を先生が丁寧に解説しているという形式になっており、受験者はこの問題を解くことで世界史に関する新しい知見を得られたのではないかと。一方、第3問中間Bは、アメリカ合衆国の移民や、アフリカ系アメリカ人全体に占める南部在住者の割合などの興味深いグラフや表が用いられていたが、それらを有効に活用する問題にするための検討の余地があったのではないかとと思われる。

なお、7と20が、共にオスマン帝国についての事実に知識の問題であり、やや重複感があった。

5 まとめ（総括的な評価）

共通テストになってから、資料や風刺画の読み取りや会話文を活用した問題が中心となったが、

それらはすっかり定着した感がある。歴史は単純な暗記科目ではない。もちろん国語の問題でもない。資料の読み取りをもとに、歴史的な知識を組み合わせる概念的に理解する、という歴史的思考力を、日々の授業で培わねばならないことは、ここ数年で、高等学校歴史教育の現場でもかなり浸透した。その背景には、共通テストでの良問の数々が、非常に大きな影響を与えている。今年度の「世界史A」の問題では、文字資料を基に君主の定義という概念と国民国家との関係性を問う[1]や、絵画資料をもと近世の為政者の宗教政策に関する意図を問う[21]などの良問が、今後の歴史教育における「知識の理解の質」のアップデートに大いに資すると思われる。

今年度の「世界史A」の問題は、第3問が「人やモノの移動」、第5問が「国際秩序」をテーマにしているなど、新科目「歴史総合」との架橋を意識した出題が多かった。第1問中間Bは、魯迅を取り上げることで日本と中国の関係について考察させたり、第5問中間Bは核弾頭数のグラフを読み取らせたりするなど、問題全体が受験者に現代的諸課題の探究を促すメッセージであると受け止めた。

大学入学希望者の学力を測る上でも、高等学校で身につけることを目指す力を示す上でも大変優れた問題作成には、多大な苦勞を要したであろう。経過措置があるものの、実質的な最後の「世界史A」の問題作成に当たり、御尽力いただいた委員の皆様に感謝申し上げたい。

世界史 B

1 前 文

「世界史B」の受験者数は75,866名と、昨年度より2,319名減少し、3年続けての減少となっている。科目選択率は昨年と同様21.7%となった。本試験の平均点は60.28点であり、昨年度の58.43点より1.85点増加しているが、日本史Bや地理Bと比較して同水準である。

なお、評価に当たっては、14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内容・範囲

(1) 評価の観点

設問形式	令和6年度	
	出題数	(出題率)
主に知識・技能を評価するもの	25	(75.8 %)
主に思考・判断を評価するもの	8	(24.2 %)
合 計	33	(100.0 %)

(2) 分野別の出題数・出題率

分野	令和6年度	
	出題数	(出題率)
政治史	17	(51.5 %)
社会経済史	5	(15.2 %)
文化史	6	(18.2 %)
複数分野に関わる	5	(15.2 %)
合 計	33	(100.0 %)

* 知識・技能を評価する問題と思考・判断を評価する問題の分類は、評価・分析委員会の判断による

(3) 時代別の出題数・出題率

時代	令和6年度	
	出題数	(出題率)
古代史	5	(15.2 %)
中世史	8	(24.2 %)
近世史	2	(6.1 %)
近代史	7	(21.2 %)
現代史	6	(18.2 %)
[うち戦後史]	4	(12.1 %)
複数時代混合	5	(15.2 %)
合 計	33	(100.0 %)

(4) 地域別の出題数・出題率

地域	令和6年度	
	出題数	(出題率)
西欧・北米	15	(45.5 %)
東欧・ロシア	2	(6.1 %)
東・内陸アジア	6	(18.2 %)
南・東南アジア	3	(9.1 %)
西アジア・アフリカ	2	(6.1 %)
中南米・オセアニア	0	(0.0 %)
複数地域に関わる	5	(15.2 %)
合 計	33	(100.0 %)

中世(5c~14c)・近世(15c~17c)・近代(18c~19c)・現代(20c~)を判断の目安とする。

第1問 世界史上に見られた体制や制度について

問1 資料について、適当な文を選択する問題。知識・技能を問う問題。

問2 文章中の人物名と資料で説明されている争乱の名について、正しい組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。

問3 明の初めの官僚が先例として挙げたと考えられる争乱の名と一族に対する分権の弊害が現れた出来事について、正しい組合せを選択する問題。資料の読み解きから歴史の事象を類型化し、明代初期の包括的な理解が求められる、思考力・判断力・表現力等を問う良問。

問4 文章中の空欄の人物について、適当な文を選択する問題。知識・技能を問う問題。

問5 資料中の人物名と資料から読み取れる内容について、正しい組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。平易ではあるが、命題の一つが資料の書き手の立場性に着目するものである点で、資料読解の方法を問う問題として工夫がみられる。

問6 イングランドとヨーロッパの他地域との関係について、適当な文を選択する問題。事実に基づく知識を問う問題。

問7 ドイツで高齢年金制度の導入時期として正しいものを、年表中の時期から選択する問

題。導入の年が分からなくても、近代ドイツの歴史の推移を基に、政治体制の役割を考察することで正答に至る、思考力・判断力・表現力等を問う問題。

問 8 イギリスで公的な年金制度の導入を主導した政党について、適切な文を選択する問題。知識・技能を問う問題。

問 9 インタビューで資料のように答えた首相の名とその人物が行った改革の内容として推察できることについて、正しい組合せを選択する問題。資料の読み取りを基に、新自由主義についての概念的理解が求められる、知識・技能を問う良問。

第 2 問 世界史における諸勢力の支配や拡大について

問 1 資料について、適切な文を選択する問題。資料を丁寧に読み解いた上で知識と結び付ける、知識・技能を問う問題。

問 2 アレクサンドロスの評価と評価がなされた時代背景を述べた文について、正しい組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。それぞれの評価の根拠となる資料を選択させるなど、問い方を工夫することで、複数ある資料を活かして思考力・判断力・表現力等を問う問題になりえた。

問 3 下線部の地域をアメリカ合衆国に譲渡した国の名と文章中の空欄に入れる語について、正しい組合せを選択する問題。資料全体を丁寧に読み解くことでミズーリ協定が特定できる、知識・技能を問う問題。

問 4 資料 2・3 の法律名と法律の作成理由や背景を述べた文について、正しい組合せを選択する、問 5 との連動問題。各法律についての包括的理解が求められる、知識・技能を問う問題。

問 5 問 4 で選択した法律が施行されたことがきっかけとなって起こった事柄について、適切な文を選択する問題。問 4 と合わせて法律の包括的理解を問う問題。問 5 で選択する事象の原因として法律を考察させるなど、連動問題の良さを生かした問題に発展できる可能性がある。

問 6 文章中の空欄に入れる語とアメリカ合衆国も参加して結成された国際組織の名について、正しい組合せを選択する問題。資料の立場性から「イ」を推論する思考力・判断力・表現力等を問う問題であるが、「ウ」が文章から容易に特定できるため、出題方法に工夫が求められる。

問 7 文章中の空欄の国の歴史について、適切な文を選択する問題。知識・技能を問う問題。ヨーロッパの冷戦構造が決定的になったという情報からチェコスロバキアを特定する。冷戦構造形成期において各事象が持つ歴史的意義の理解が問われている。包括的な理解を問う良問。

問 8 中国の第 1 次五か年計画のグラフから読み取れる内容とソ連の第 1 次五か年計画の文について、正しい組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。グラフの読み取りが平易すぎるため、事実上の三択問題となった。ソ連の資料を設定して中国のグラフから読み取れる事象の理由をソ連側の資料から考察させるなど、両国の事象や複数の資料を連動させることで思考力・判断力・表現力等を問う問題に昇華できた可能性がある。

第 3 問 社会の在り方に影響を与えた交通の発達について

問 1 文章中の空欄の人物の治世に起こった出来事について、適切な文を選択する問題。知識・技能を問う問題。

問 2 デリーについて、適切な文を選択する問題。事実に基づく知識を問う問題。地名を空欄にし、地図からデリーを特定した上で知識を問うなどの工夫が考えられたのではないだろうか。

問3 学生たちがまとめたメモの正誤について、適当な文を選択する問題。知識を基にメモを読み解いた上で、地図を読み解く技能が求められる、知識・技能を問う良問。特に地図の使い方において、工夫が見られる。

問4 グラフで示された時期にアメリカ合衆国で起こった出来事について、年代の古いものから順に正しく配列されたものを選択する問題。第一次世界大戦後のアメリカ経済についての包括的知識が問われているが、**い**の選択肢を経済に関わる事象とすることで、推移を考察する思考の問題に発展できた可能性がある。

問5 アメリカ合衆国の鉄道の旅客輸送量及び貨物輸送量の変化の要因について仮説を導き出した。仮説中の空欄について、正しい語句と文を選択する問題。資料の正しい読み解きから根拠を推察する、思考力・判断力・表現力等を問う問題。複数資料を組み合わせる仮説を導くことや選択肢を工夫することで、生徒が仮説を立てるプロセスを追体験し、より深い思考を問うことができた可能性がある。

問6 文章中の空欄に入る国名と下線部の理由と考えられる文について、正しい組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。

問7 生徒のメモの正誤について、適当な文を選択する問題。資料と会話文から読み取った情報を基に、既知の知識を概念化することが求められる、思考力・判断力・表現力等を問う良問。

第4問 言語や文字とそれを用いた人々の文化やアイデンティティについて

問1 文章中の空欄の人物の事績とその人物が開催した公会議について、正しい文の組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。

問2 地域や王朝を越えて伝えられた文化や制度について、適当な文を選択する問題。事実に基づく知識を問う問題。選択肢や問い方を工夫することで、世界史探究における「諸地域の交流・再編」が視野に入る問題にもなり得た。

問3 シリア語とそれを用いた人々の歴史について、適当な文を選択する問題。資料と会話文からの情報で、既知の知識に新しい意味付けをする、思考力・判断力・表現力等を問う良問。

問4 言語と作品について、誤っている文を選択する問題。事実に基づく知識を問う問題。

問5 ポルトガル王室がコロンブスを支援しなかった理由について、推察される仮説として最も適当なものを選択する問題。年号の知識のみでも解答できるため、選択肢に改善の余地はあるが、教科書に書かれていない事柄について、既知の知識を根拠として考察し論理整合性から正答を判断することが求められている。思考力・判断力・表現力等を問う良問。

問6 「コロンブスはスペイン人である」という誤った説に対して、文章から読み取れる思い込みの内容と背景にある価値観について、正しい組合せを選択する問題。文章から読み取れる情報を根拠に、概念化された知識に見出すことが求められる、思考力・判断力・表現力等を問う良問。86.8%と正答率が高くなっているのは、受験者の思考力・判断力・表現力等が向上していることによるものと推察され、好ましい傾向であると言える。

問7 文章中の空欄の反乱について、適当な文を選択する問題。知識・技能を問う問題。

問8 文章中の空欄に入れる語と文について、正しい組合せを選択する問題。南朝時代から唐代にかけて漢詩に対する包括的な理解が問われた、知識・技能を問う問題。

問9 メモの正誤の組合せについて、適当な文を選択する問題。知識・技能を問う問題。**メモ2**中の「自文化を維持しつつ」という文言がなければ、北魏と清を類型化して比較する、思考力・判断力・表現力等を問う、より良い問題になり得た。

3 分量・程度

分量に関しては、試験時間に見合った適切なものである。次年度以降は新科目の導入に伴い、資料やリード文の読み解きを踏まえて考察する出題は更に増加することが予想される。今年度の分量は適切であったが、今後も試験時間、小問数などを含めた様々な観点から分量を検討し、増加傾向にあるテキスト量についても、無駄な資料や表現などが無いように、常にチェックしながら問題を作成していただきたい。難易度は、大学入学希望者の学力を測定する試験として適切なものであった。

今年度の出題においても、受験者の思考力・判断力・表現力等を評価する問題や歴史事象の概念的な理解を問う問題などにおいて、工夫が見られた。3においては、資料を基に歴史の事象を構造化して類型化することが求められる点と、受験者が歴史の事象の再解釈を求められる点で良問であった。歴史事象を構造化して比較する問題は、思考力・判断力・表現力等を問う問題として今後も出題をお願いしたい。24は、読み解いた情報を用いて、既知の歴史事象を概念化する問題である。受験者は事実的知識を概念化する際に特に歴史的な見方・考え方を働かせて思考する。受験者が受験をとおして知識を文脈の中に置き、新しい意味付けをしていくような問題は、歴史の入試問題として望ましいものとする。22は仮説の根拠を考察させる問題である。この問題では資料を読み解いた上で既知の知識と照らし合わせ、仮説を立てる形式となっている。歴史において知識をいかに活用するかが示されており、歴史の知識を生きた知識にするためのプロセスが組み込まれている。同様に仮説を扱った29は推察される仮説の妥当性を考察する問題である。年号の知識でも解答出来る面は改善の余地があるが、出題された条件に対し、論理整合性に基づき判断していくという思考のプロセスは、受験者自身が仮説を立てる際の思考のプロセスの追体験であり、非常に好ましい。どちらの問題も、歴史を実践する場面における受験者の思考を促すという点で非常に優れた問題であるが、仮説を立てたり、立てた仮説を検証したりする、という場面においては、後者のタイプの方がより親和性が高いように思われる。30は資料や文章から読み解いた思い込みの根拠を、「国民国家」という概念に見出す思考の問題である。事象を歴史的に読み解くためには、概念化された歴史の知識が用いられるが、この問題では概念の使い方が示されており非常に優れた問題となっている。

9は、新自由主義や福祉国家の概念が問われた非常に優れた問題である。受験者はサッチャーの政策がどういった性質なもので、どのような考えに基づくものであるのかを全体的な事象として理解していなければ正答を判断できない。歴史における知識には一問一答で答えられるような事実的な知識や、事象を示す概念的な知識がある。歴史を読み解くためには双方が必要であるが、センター試験時代にはより前者に重きが置かれていた。大学入学共通テストの導入や新科目の開始に伴って後者のタイプの知識の重要性が注目されている。事実的な知識のより良い出題や概念的知識の出題について、今後も引き続き検討していただきたい。

4 表現・形式

今年度の出題では、資料に基づく問題やリード文を用いた問題、高等学校の授業や大学のゼミの場面など、多様な形式での出題が見られた。多くの中間において、多くの受験者にとっては初見となるだろう複数の資料が設定されていることが特に注目される。生徒が探究的に学ぶ場面を考えた際、資料を基に歴史を考察する場合には多面的な考察のために複数の資料を用いて比較検討することが望ましい。大学入学共通テストにおいても、複数の資料を用いた出題がなされるというのはいい傾向だと考えるので、引き続き検討をお願いしたい。

第2問Aの問題では、アレクサンドロスに対する異なった評価をしている複数の資料が提示されている。中間全体の構成として非常に優れた問題である。11がアレクサンドロスの評価がなされた時代背景のみを問うているが、評価根拠となった資料を選択した上でその資料が書かれた時代背景を考察する問題としていけば、優れた資料をより活かした問題に発展できた可能性がある。

13と14は複数選択肢の連動型問題となっている。今回の出題においては法律→背景→結果とすべて、知識が問われた問題となっていたため、この形式を取る必然性を感じなかった。14の問題が先にあり、その原因や背景を考察させる問題として13が後になっていけば、事象間の因果を考察させる問題になったかもしれない。また、歴史事象に対する異なる評価があり、その評価を選択した上で、根拠や根拠となる資料を選択するような形式の問題の方が複数選択肢連動型問題の良さを生かせるのではないだろうか。今年度においては、11を連動型問題に設定して、そのような形式の出題ができたように思われる。新しい形式への挑戦は大いに評価するし、今後も出題して欲しい形式ではあるので、出題のあり方について今後も検討をお願いしたい。

20は資料としての地図の使い方において工夫が見られた。地図については、地図から場所を選択するのみでなく、地図を操作するという作業的な要素を加えることで、受験者の資料活用の技能が評価できる。図像資料や地図資料の使い方については、今後も検討をお願いしたい。

5 ま と め（総括的な評価）

本試験「世界史B」では、解説文や会話文を含めた資料に対し、読み解きの技能や読み取った情報に基づいた知識や思考を問う問題を出題しようという明確な意図が見られた。さらに、中間単位で複数の資料を設定するなど、資料の読み解きや資料の活用に力点が置かれていた。総じて大問や中間のテーマに沿ってリード文や資料と結びつけられて、大問内や中間内で多くの小問同士が相互に関連しながら出題された良問であった。大学入試における受験者の学力を測る上で、優れた問題であったし、経過措置はあるものの「世界史B」の最後の問題としてふさわしい問題であった。

「世界史B」での出題が最終年となる今年度であったが、来年度から始まる新科目へ架橋する意図が随所に見られた。22で出題された1920年代における自動車の普及は、学習指導要領「歴史総合」大項目Cの「国際秩序の変化や大衆化と私たち」と深く関わる事象であり、第4問中間Aの主題や26で出題された、文化の相互交流については、学習指導要領「世界史探究」大項目Cの「諸地域の交流・再編」において取り扱われるテーマであった。知識を問う問題においても、概念化された知識や歴史事象全体を包括するような理解が積極的に問われており、大学入試の歴史科目において求められる「知識の質」のアップデートが順調に進んできたように感じられる。新科目においても、歴史教育において求められる知識とは何なのか、さらなる追究をお願いしたい。

また、今年度には仮説についての出題が2題見られた。歴史の授業における探究のプロセスは、資料の読み解き→問い（課題）の表現→仮説→資料による検証→まとめ、というサイクルを取る。新科目「歴史総合」「世界史探究」双方において、生徒が探究的に学ぶことが想定されている。高等学校の学習活動で身につけた力を評価するのが大学入試であるはずなので、今後とも仮説を初めとした探究のサイクルに基づく出題をお願いしたい。仮説や仮説の検証においては、資料や知識を活用して妥当性の高い仮説を立て、その説の妥当性を論理整合性という見地から判断することになる。今年度の「世界史B」においても、思考力を働かせて論理整合性を検討する出題がなされたが、新科目においても積極的に出題していただきたい。その際には、複数選択肢連動型問題によって、説と説の根拠や根拠となる資料を選択することや、説の妥当性の度合いに応じて、

配点が変わる問題など、これからも様々な出題の在り方を検討してもらいたい。

大学入学希望者の学力を測る上でも高等学校の学習活動で身につけることを目指す力を示す上でも大変優れた問題の問題作成には、多大な苦勞を要したであろう。問題作成に当たり、御尽力いただいた委員の皆様に感謝申し上げるとともに、来年度から始まる新科目の作問に携わる方々に心からのエールを送らせていただきたい。